

屈辱的な数字

2012年、米国でシングルマザーに養育され、現在アメリカの名門大学イエール大学在学中の女子学生センナ氏は、生まれ故郷である中国の武漢市に自分の産みの親を探しに行った。20年前の1992年の三月に、彼女は武漢市の長距離バスセンターで遺棄された。彼女が武漢市を訪れるという情報を地元の新聞が公開したと同時に、50組の男女が自分達がセンナ氏の産みの親と申告した。その中の13組は明らかに嘘をついているとして排除された。残る37組の男女のDNAはセンナ氏のDNAと照合されたが、残念なことにセンナ氏のDNAと一致した組はひとつもなかった。

センナ氏は1992年に、中国から米国の家庭に初めて引き取られた200名の赤ちゃんの一人である。

その年から今まで、約8万人の中国の遺棄児童が米国家庭に引き取られて養育された。中国の一人っ子政策の関係で、遺棄児童の大部分は女の子である。

アメリカ人が中国の児童の里親になったピークは2007年で、その後は減少に傾いている。しかし、障害児の割合は高くなっている。例えば、2009年から2015年の7年間で約18,384名の児童が米国の家庭に引き取られて養育されたが、その内、約14,000名は障害



児である。もう一つの不可解な数字は、一人の障害児を引き取った場合、引き取り手が5万ドルを支払わなければならないということである。当然養育費と治療費はそれとは別である。

最近、中国の一部分の知識人は中国の遺棄児童が、米国の市民家庭に引き取られて養育されていることを非常に問題視している。なぜ、彼らの親が扶養せず、また、中国政府も扶養せず、アメリカの市民が優しく手を差し伸べて養育するのかとの質問を提起した。

地元のある記者は、当時センナ氏を自分の娘と偽って申告した数組の男女にインタビューをした。現在アメリカ在住の優秀なセンナ氏の親と認められれば今後いい生活ができる、という彼らの思惑だと記者は分析した。彼らが少しも反省しておらず、ただセンナ氏を利用したいという私欲にまみれた表情を思い出すと、彼は吐きそうなほど気分が悪くなると語った。

お得な定期購入 会員様募集中

1年・6回コース
10%割引

半年・3回コース
5%割引

詳細は同送チラシ
をご覧ください。